

# 自治会 第63号 あつぎ

## 目 標

- ◎みんなの手で育てようあすの自治会を
- ◎地域づくりは市民の民主的・自発的活動から
- ◎行政と協働で築く豊かな文化

平成25年3月15日発行

発行 厚木市自治会連絡協議会  
編集 厚木市自治会連絡協議会広報部会  
電話 046 (225) 2101

ネットは

## 地域の「総力」で絆を深め 安心して暮らせるまちづくりを

厚木市自治会連絡協議会  
会長 大久保 盛造



厚木市自治会連絡協議会  
大久保会長

ろんですが、災害時に援護を  
求める高齢者など（要援護者）  
を地域で支える災害時要援護  
者支援制度にも力を注いでお  
ります。

春まだ寒い今日このごろ、  
自治会員の皆様にはお元気で  
お過ごしのことと推察申し上げ  
ます。日ごろから、自治会  
活動に対しご理解とご協力を  
頂き心から感謝申し上げます。  
自治会は、地域の皆さんにと  
って最も身近な住民組織です。  
誰もが健康で安心して暮らせ  
るように、行政と連携を密に  
しながら、協働で地域の課題  
に取り組んでいます。

### 防災・防犯力を高める

自治会の主な活動としては、  
防災、防犯、地域福祉、交通  
安全、環境美化、広報などが  
あります。特に防災について  
は、自主防災隊である自治会  
にとって、最も重要な課題で  
す。訓練や物資の備蓄はもち

先々の震災を踏まえ、行政で  
は地域防災計画を見直し、制  
度の強化が盛り込まれました。  
これまでの取り組みに加え、  
安否確認や避難誘導など、要  
援護者の実情に合わせた支援  
計画を作成し、災害に備える  
というものです。災害時のリ  
スクを少しでも抑えるため、  
福祉防災の立場での対策であ  
り、あらゆる面から防災力を  
高めていこうという試みです。  
現在、自主防災隊と民生委員・  
児童委員、市の三者で協力し、  
計画書の作成を進めていると  
ころです。

一方、防犯活動については、  
「無理しないで、無理させな  
いで、怠らず活動すること」  
が効果的であり、抑止力が重  
要と考えます。目に見える  
対策として、セーフティベスト  
の着用がありますが、不審者  
への高い抑止力となっているた

め、自治会での活動の際には、  
できるだけ大勢の方々に着用  
していただきたいと思えます。

自治会ではこのほか、パトロ  
ールを中心に防犯灯の照度ア  
ップや愛の目運動など、行政と  
の協働で犯罪の発生しにくい  
環境づくりを進めています。

### 地域の環境美化を推進

環境美化活動は、市が掲げ  
るごみ減量化率30%、資源化  
率35%を目標に、皆さんにご  
協力いただいているところで  
す。現在、資源化率は33%ま  
で進みましたが、ごみ量は増  
加傾向にあります。今後も引  
き続きごみ減量化を積極的に  
推進する必要があります。

また、自治会では、地域の  
清掃をはじめ、公園の管理や  
花の植栽など、地域の美化活



会員総出で実施する年末美化清掃

動を積極的に進めています。  
多くの皆さんにご加入を

自治会活動は、何よりも会  
員の皆さんに支えられていま  
す。より良い地域を作るため  
には、より多くの皆さんに参  
加いただくことが必要です。

自治会では、新たに住民と  
なった方々を中心に、自治会  
活動の意義や楽しさを伝え、  
自治会への加入を呼び掛けて  
います。特に転入者が多い毎  
年3月は、加入促進月間と銘  
打ち、全市的に加入促進を展  
開。市においても、市役所に  
訪れた転入者へチラシを配布  
してもらおうなど、連携した支  
援を頂いております。

### 人と人のつながりを第一に

先の震災では、多くの人々  
が「地域の絆」の大切さを痛  
感しました。その絆を守り、  
深めていくためには、自治会  
が中心となって、人と人との  
つながりを第一に、よりよい  
地域をつくっていくことが重  
要と考えます。

これからも、自治会活動を  
地域総ぐるみで、総力を挙げ  
て推進していきたいと思いま  
す。これからも、皆さんのさ  
らなるご支援とご協力をお願  
い申し上げます。



駅前をパトロールする会員たち

### 我が自治会の 活性化を目指して

厚木北地区  
西仲自治会  
会長 三木 智之

西仲自治会は、先人の話によりますと、昭和51年に仲町町内会から分離して独立した自治会です。当初は小規模の自治会でしたが、現在では厚木市で一番大きな自治会（会員数2,091世帯）に成長しました。規模が大きいため、よく皆さんから分離したらどうかと言われますが、地域性を考えますと非常に多くの難題があり、一概にそうできないのが実情です。

当自治会は、中町・栄町・田村町の三町で構成されており、本厚木駅北口周辺が自治

会区域となつています。市街地ということもあり、色々な犯罪が多い地域でもあります。西仲自治会では、セーフコミュニティ推進地区として防犯パトロールを強化し、地域の安心・安全に努めております。その結果として、刑法犯認知件数が年々減少しつつあり、抑止力の向上が顕著であると考えます。

自治会では、防犯活動以外にも、歩け歩け大会やソフトボール大会、敬老会、チャリティークリスマス、餅つき大会など、年間を通じて多くの事業活動を実施しております。今後も地域住民のコミュニティ向上を目指して、役員一同、一丸となつて精進・努力してまいります。

相模川河原  
鮎のつかみ取り大会  
依知南地区  
下依知自治会  
青少年未来部長  
大館 昭一

「わあ、きゃあ、いたぞ、捕まえたー、ぬるぬるだー」。スタートの声とともに始まった「鮎のつかみ取り大会」。河原に造ったいけすにアユを150匹放し、小・中学生を

中心に行いました。つかみ取りの後、スイカ割りを開催。応援する親たちも夢中になり、大変盛り上がりました。そうこうしている間に、捕まえたアユの塩焼きの出来上がり。地域の方に、焼きそばやスイカ、かき氷なども用意していただきました。食事の後、暑い夏ということ、子どもも大人もびしょ濡れになるまでいけすで遊びました。この日は子どもたちにとって、地域や親子での触れ合いなど、とても良い思い出ができ、大成功でした。



夢中でアユを捕まえる子どもたち

会場設営や運営など、自治会役員をはじめ、漁協や地域ボランティアの皆さんに協力いただき、事故もなく開催できたことを感謝しております。下依知自治会ではこのほか、4月のお祭りや7月の盆踊り、9月の防災訓練、年2回の地域清掃など、青少年との触れ合いを大切に活動しています。

### 地域力を育む 自治会館が完成

睦合北地区  
根岸連合自治会  
会長 市川 忠行

昨年10月、わが自治会に待望の自治会館ができました。実に、10年余りの歳月を要しました。この間、自治会では、会館建設という大きな目的のため、特別資金を積み立て続け、まさに我慢の10年でした。自治会館は、総ひのきの無垢材を使用し、面積は136平方メートル。特徴は県産材を使用することにより、県の補助を受けたことです。

施設は、「利用上の決め事」の範囲内で、娯楽や趣味、集い、会議、教養、研さん、料理教室など、会員の皆さんが自由に利用できるようになっております。ここでの活動を通



10月に完成した根岸連合自治会館

じて、人を知り、地域を知り、希薄となつていく人々のつながりや和が広がり、根岸は一つであるということを確認し、いざと言う時に大きな力へつながって行くことは間違いありません。

ここに、一つの公共施設が誕生したことは、人が行き交い賑やかになるということ、賑やかになるということ、活気づくということ、発展するということです。

これを機会に我が自治会は、さらなる大きな歩みを進めていくであろうと思っております。最後になりましたが、是非とも各位には、この会館をご高覧いただきますよう、心よりご案内申し上げます。



高齢者を招いた食事会の様子

### ふれあいと絆

睦合西地区  
及川第3自治会  
会長 和田 勝

及川第3自治会は、荻野川の東側、市営及川球技場が位置する加入数300世帯の住宅地域にあります。隣接する及川第1、第2自治会と共に、及川地区自治会を組織して活動しています。

及川地区自治会の三大大行事である7月の盆踊り大会では、早朝から役員総出で準備をし、他団体の協力による模擬店などで大変盛り上がりました。11月には地域の高齢者の方々を招き、食事会を楽しみながら股旅物や日本舞踊を披露し、大いに喜んでいただきました。数日後には「及川ふれあいま

つり」と銘打ち、幼児から高齢者まで、約200人の参加でバーベキュー大会を開催。ビンゴゲームを行うなど、触れ合いと絆を深めることができました。

また、「地震災害発生時の対応マニュアル」作成プロジェクトを、平成23年5月から、月2・3回のペースで検討を重ね、24年4月に総会の承認を得て6月に全戸配布することができました。これと併せて21年度に作成した「地震災害発生時の緊急避難場所利用者及び要援護者名簿」を見直すため、23年12月にアンケートを実施しました。

これからも、地域の安心・安全のために、努めていかなければならないと思います。

### 災害に強い自治会館の建設を目指して

南毛利南地区  
上愛甲自治会  
会長 高澤 和雄

上愛甲自治会は愛甲石田を最寄り駅に、伊勢原市と隣接した地域に位置しております。近くにはアマダがあり、駅から日産テクニカルセンターに向かう細長い地域に会員の家があります。



無病息災を祈るどんど焼き

会員数は685世帯で、旧家や新宅、マンション・アパートなど、さまざまな世帯構成となっております。地域の特徴としては、2カ所ある神社（神明神社・熊野神社）で、7月と9月にお祭りが開催されます。

3・11の地震後、自前の公民館（二階建）を調査したところ、耐震性がゼロに近いという結果となり、今年の12月をめどに建て替えを計画しました。建設委員会を立ち上げ、協議を進めております。名称も上愛甲自治会館に変更。平屋建てで耐震性を重視し、バリアフリー化や身障者用トイレを完備するほか、色々な活動に使用できるよう、使いやすい間取りを考えています。自治会活動としては、1月

### 小野小町伝説の復活祭

玉川地区  
岩田・町屋・竹の内自治会  
会長 宮内 一男

小野地域の川野・桂木地区にある小町山の頂に、平安時代の有名な歌人である小野小町を祭る小野神社があります。この地区は古くから小野小町の誕生地として語り継がれ、これにまつわる七不思議（小野塚、小町井戸 など）も併せて伝えられています。

しかし、それぞれの場所は実在するものの、ほとんどが整備されず、一部が確認できる程度の状況でした。これを見た地元有志グループ（小野小町研究会）が、小町ゆかりの土地（京都、千葉県ほか）を視察しながら二〇〇五年、修復作業を開始しました。会

の「どんど焼き」に力を入れており、子どもたちに団子作りを指導しています。年間では、安心・安全のための防犯パトロールを実施。役員・組長・各種団体協力の下、毎月5コースを回っています。また、年2回の美化清掃で地域美化に努めるなど、住みやすいまちづくりを進めています。

員はもとより、地域や自治会の方々の地道な努力によって昨年五月、全ての修復が完了しました。

これを記念した復元祭が小町公園で執り行われ、松蔭大学の学生が小町娘に扮するなど、雅な雰囲気味わえました。復元されたスポットは、会員や地元の方々の手作りと、思えぬ程の出来栄で、とても素晴らしいものでした。今後も小野小町伝説が廃れることなく、後世に伝えられるものと希望して止みません。また、小町山は桜の名所でもあります。一度、小野小町伝説スポット巡りと小町山ハイキングを楽しんでみませんか！ぜひ、お出掛けいただきたく、お待ちしております。



小町娘(右)が案内した小町池



地域挙げての「新年の集い」

餅つき体験や7種類のからみ餅

森の里地区では、例年、自治会と「まつり世話人会」が中心となって、地域挙げての三大祭り（鯉のぼり祭り・夏祭り・クリスマス祭り）が開催されます。このほか各自治会では、地域の絆と活性化のために独自の行事が実施されています。

イベントを通じて 隣近所の 良い関係づくりを  
森の里地区  
森の里1丁目自治会  
会長 神保 忠男

餅・豚汁・おしるこを配るなど、老若男女が会話を楽しみながら、交流を深めています。また、年男・年女の皆さんには、紅白餅をプレゼントしています。

「見まもり活動」について  
相川地区  
中戸田自治会  
会長 石川 敏雄

さらに「どんど焼き」では、正月飾りなどを燃やし、紅白団子を焼いて今年1年の無病息災を祈ります。この準備には、班長や役員さんをはじめ、経験豊富なサポーター隊の皆さん、子ども会の役員さんにも応援いただき、地域総ぐるみで盛り上げていきます。

前日の下ごしらえから始まり、当日は寒風の中、早朝から餅米90キをついたり、7種類のからみ餅を作ったりするのは大変ですが、交流が広がり隣近所との良い関係が築かれ、いざという時に、お互いが助け合える地域を目指していきたいと考えています。

中戸田自治会では、子どもたちの通学の安全を確保するため、毎朝、主な交差点等において、「見まもり活動」を

実施しています。自治会役員をはじめ戸田小学校PTAの保護者、民生委員・児童委員、交通安全母の会、その他ボランティアの皆さんの協力いただいています。



登校時の「見まもり活動」の様子

体で子どもたちの見守り活動を実施してきました。現在は、毎朝の登校時間を中心に約15人が6カ所に分かれ、セーフティベストを着て交通整理を行うとともに、「おはようございます」と声を掛け、子どもたちが元気で登校する姿を日々見守っています。

緑ヶ丘団地 50年を振り返って  
緑ヶ丘2丁目自治会  
会長 笹山恵一郎

尼寺原台地に緑ヶ丘団地が生まれ、今年で50年目を迎えた。当初、若い入居者で賑わった商店街も県住宅供給公社との契約が切れ、民間業者に払い下げられるようだった。これを見越した商店街の店は、次々に転居し、現在2店と銀行が残るだけのシャッター通りとなってしまった。



多くの人出で賑わう「ふるさと祭り」

例年8月、商店街のバス通りを歩行者天国にして催される「ふるさと祭り」は、大変な人出で賑わうが、催しや商環境など、商店街の在り方が問われるような気がする。自治会会員数は、商店街の店舗を含め、過去10年では平成20年の256世帯をピークに現在は243世帯と減少傾向にある。50年経ってみれば、高齢者率市内一の地区となり、購買力も低下。商店街唯一の大型店舗撤退に大きな影響を与えた。また、当時は、車社会への予見がなく、商店街に駐車場がないのも響いた。車の普及で、行動範囲や居住環境が一変し、車に乗れない高齢者にとって、住みにくいま